

# 三條別院のご案内

真宗大谷派 三條別院  
TEL : 0256-33-0007  
E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

## 三條別院に想う

三條別院に最初に訪れたのは、高校三年の時に得度審査を受けに来た時にお参りさせて頂いた夏でした。それから早、四十四年の歳月が過ぎ今思うと懐かしい思い出となっています。その頃は現在の同朋会館もなく、今の幼稚園の二階で審査を受けた記憶があります。

別院は“大きな本堂だなあ”と感じて帰りましたが、ただそれだけで、あとは全く思い出せません。

その後、しばらくは学校、会社と忙しい日々を過ごしていたので三條別院にはお参りにこれませんでした。住職を継ぐことになり、新潟に帰ってきてからは、組の仕事や報恩講のお参り等で時々お邪魔させていただくようになって地域と一体になることが願われている別院の役割、存在を感じています。

住職になってから三十五年が過ぎ、蓮如上人の五百回御遠忌法要、五月に厳修される親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に遇うことができ、また別院の建物等が修復され、永きに渡って継続していく様子を見てみると寺院・御門徒の皆様のご苦労が偲ばれます。

親鸞聖人の七百五十回御遠忌法要を目の前に

して、団参の準備をしていると、さぞかし大勢の人が別院の本堂を満堂にしてお参りするんだろうと思いを馳せます。

「一宗の繁昌と申すは、人の多く集まり、威の大なる事にてはなく候う。一人なりとも、人の、信を取るが、一宗の繁昌に候う」の言葉にあるようにお参りに来られた方々が何かを感じ、何かを学んでいけたら幸いに願っております。

合掌

### 第十一組運行寺住職 松浦範夫氏

○次回の「三條別院に想う」は、  
永寶和彦氏（第十組浄敬寺住職）より  
ご執筆いただきます。



### 子ども奉仕団 i n 子ども御遠忌報告

今年の子ども奉仕団は、四月四日から五日にかけて勤められた子ども御遠忌に併せて開催されました。1日目の巨大紙芝居、マジックショー等のステージイベント、念珠づくり、いにしえ遊び、クイズラリーをはじめとした遊ブース、しんらん音頭、テツナギマーチ、2日目の片平里菜ライブを楽しみつつ、同朋唱和、お釈迦様のお誕生をお祝いする灌仏、大勢の友達との別院での一泊体験（きもだめし含む）など、例年の子ども奉仕団でおなじみの行事も行いました。

今年も教区の一時保養プロジェクトによる福島県からの参加者もありました。何年も続けて来てくれている参加者もいます。

また、三條の地場産業である鍛冶体験や、夜食で食べた「なむの里」のつるがや菓子店の見学など、別院の外に飛び出した活動もありました。街の人々をはじめとして、人と人とのつながりを大切にしていきたいという願いが広がりをもちはじめていると感じさせる今年の奉仕団でした。



### 三 条 別 院 公 開 講 座

「地域に開かれた別院」を願いと、本年も左記の通り、公開講座を開催いたします。

森田正馬（一八七四～一九三八）の開発した、日本生まれの心理療法である森田療法は、仏教をはじめとした東洋思想に影響を受けていて、西洋的な価値観のゆらぐ現代で、その哲学が再注目されています。そこで、一昨年・昨年に引き続き、北西憲二氏（森田療法研究所長・北西クリニック院長）に、心理療法の最前線と仏教の関連についてお聞きします。

◇日 時 六月十四日（日）

午後二時三十分～午後四時三十分

◇場 所 三条別院内 同朋会館

◇講 師 北西憲二氏

（森田療法研究所長・北西クリニック院長）

◇講 題 「心の問題と仏教思想・親鸞思想

―自己愛の病理の理解とその対応をめぐって―

◇参加費 無料

◇その他 教区内寺院にはポスターを同封しておりますので、掲示にご協力をお願いいたします。

### 宗 祖 御 命 日 の 集 い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣

をお待ち申し上げております。

なお、前日（二十七日）はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

【五月二十八日（木）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

渡邊 智龍 氏（第十八組 恩長寺）

◇今後の講師一覧

六月 田中博之 氏（第十三組 万休寺）

### 定 例 法 話 会

毎月十三日の前門首のご命日

（両度の命日）に行っている定例

法話会を左記の通り開催します。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より（二時間程度）

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇講 師

五月～七月 小林 智光 氏（第十二組 淨照寺）

◆五月からは小林氏による「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」です。昨年九月の朝の人生講座にて概論をお話しいただきましたが、このたびは三回連続講座にてお話しいただきます。

◆五月からは小林氏による「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」です。昨年九月の朝の人生講座にて概論をお話しいただきましたが、このたびは三回連続講座にてお話しいただきます。

◆五月からは小林氏による「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」です。昨年九月の朝の人生講座にて概論をお話しいただきましたが、このたびは三回連続講座にてお話しいただきます。

◆五月からは小林氏による「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」です。昨年九月の朝の人生講座にて概論をお話しいただきましたが、このたびは三回連続講座にてお話しいただきます。

◆五月からは小林氏による「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」です。昨年九月の朝の人生講座にて概論をお話しいただきましたが、このたびは三回連続講座にてお話しいただきます。

### そ の 他 の 講 座 案 内

#### ◎別院声明教室（全五回）

〔月一回水曜日、午後六時～八時〕

①一月十八日（済）②三月十八日（済）③四月十五日（済）

④五月十三日⑤六月十七日

講習内容 正信偈 草四句目下

講 師 真島修智 氏（第十六組 光得寺）

参加費 五〇〇円/回

#### ◎別院書道教室

〔月一回第一、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威 氏（新潟県書道協会理事）

月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

### 随 時 募 集 中

#### ◎三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか？

#### ◎別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

#### ◎別院特別参拝

皆様の御懇念により御修復が完了した本堂・諸殿をご案内いたします。

◎日程

・勤行（修復の完了した本堂にて同朋唱和）

・三条別院の歴史について

・三条別院の歴史について



・宗祖御遠忌法要概要説明

・諸殿拜観（修復箇所を中心に説明いたします）

本堂・旧御堂・書院・同朋会館・駒札

◎冥加金 金額は定めておりません。

◎その他 お土産に「越佐の国三条別院なむの里」をお求めの場合、事前にご連絡ください。

### ○三条別院有志の会

清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。参加希望は別院まで。

### 同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後シートクリーニング代五〇〇円とシートを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

### 私たち、別院有志の会です！（会員の声）

別院へのお参り

—暮らしを見直す—

日向ぼっこがてらに草むしりをしたり、低木の苅り込みをしたり、時に埋蔵文化財や古文書などの集まりに出てみたりの取り止めのない毎日で、流れてゆく生活に区切りをつけてくれるのが月に二回の別院へのお参りでした。



「誰でも入れるんですよ」という有志の会の会長さんの言葉で、何かお手伝いできることがあればとお仲間に入れていただいたものの、少し耳が遠くて虫食いになる法話を板書で補って成形、完結させたりしています。皆さんが笑い、楽しむ話の機微までは聞き取れないのが残念ですが、係の方達がマイクの音量を調整して下さるので助けられています。

旧御堂わきにセンター室がありその奥に書庫があつて、講師の控え室にもなっているのですが、そこに『良寛―悟りの道』、『良寛と仏道』が置かれていました。

禅僧のままに念仏したという良寛さんは、如来に信じられ、敬われ、愛され、そして如来を信ずることのできた人でもあったのでしょうか。毎年のように梅雨の頃に水害、そこに大地震が加わる。その惨状と世情、人心の墮落を嘆き、対応の遅れる政治を暗に批判、今に重なる人災とも言える自然災害に慨世の詩を残しています。

東日本大震災復興支援チャリティーバザーが続けられています。皆様からの寄進の品々が仕分けされ手際良く値段が決められています。できるだけ安く、喜んでもらえるように気配りしながら。別院の職員の方々、有志の会の皆さんが売り場にも立って、買ってくられる人達とのやりとりの中で喜んだり心配したりして。

人を救う喜びに救われる喜び、共に生きる喜びです。

（内山 良典 氏）

### ◇◇編集後記◇◇

御遠忌まで、もはや秒読み。という中で別院では退職する方や新たな仲間も加わる中、新体制で動き出している。特に新しく列座見習いとして入った藤井、森尻両人は御遠忌直前という環境に非常にプレッシャーを感じている事だろう。入って一ヶ月半後に五十年に一度の大法要をお迎えするのだから並大抵のことではない。

五年前、私が同じ様に別院に来た時に、何をしたいものか右往左往し、「やることがわからなければ掃除をしないさ。」と言われ、ホッとしていた事。先輩が業務に追われながら様々な事を教えてくれた事などを思い出した。御遠忌を前に彼らと研鑽を積むことは、何より自身の確かめであると感謝をしたい。

慣れない環境で懸命に学ぼうとする彼らとお迎えさせていただく御遠忌が楽しみである。

（松浦武）

